

学校行事への参加（出番・役割・承認） を通して生徒の自信と社会性を引き出す支援

～ 自立活動の工夫および
組織的な対応を通して ～

佐賀県三養基郡 みやき町立中原中学校
教諭 待鳥 由布子

みやき町立 中原中学校

令和7年度

● 全校人数 【 209名】

● 各学年人数 【1年生 69名】

【2年生 75名】

【3年生 65名】

● 特別支援学級数・人数内訳

◇ 情緒2クラス 【1年生 5名】

【2年生 4名】

【3年生 1名】

◇ 知的1クラス 【1年生 3名】

◇ 病弱1クラス 【1年生 1名】



在籍生徒数（令和3年度～令和5年度）

令和3年生

● 全校人数 【 187名】

● 各学年人数 【1年生 58名】

【2年生 71名】

【3年生 58名】

● 特別支援学級数・人数内訳

◇情緒2クラス【1年生 2名】

【2年生 6名】

【3年生 1名】

◇知的1クラス【2年生 1名】

【3年生 1名】

◇病弱1クラス【1年生 1名】

令和4年度

● 全校人数 【 191名】

● 各学年人数 【1年生 59名】

【2年生 61名】

【3年生 71名】

● 特別支援学級数・人数内訳

◇情緒2クラス【1年生 3名】

【2年生 3名】

【3年生 7名】

◇知的1クラス【1年生 1名】

【3年生 1名】

◇病弱1クラス【1年生 1名】

令和5年度

● 全校人数 【 180名】

● 各学年人数 【1年生 61名】

【2年生 59名】

【3年生 60名】

● 特別支援学級数・人数内訳

◇情緒1クラス【1年生 1名】

【2年生 3名】

【3年生 2名】

◇知的1クラス【2年生 2名】

◇病弱1クラス【1年生 1名】

入学前の様子

○小学6年生時

- ・特別支援学級の担任と口論が絶えない。
- ・暴れたり、教室を抜け出したりする。
- ・1年間ほぼ不登校の状況で過ごす。
- ・家庭での学習はあまり行われていない。



入学時の様子

- ・入学前の面談

- 敬語で話すことができ、礼儀正しい様子。質問にもよく答える。

- ・入学式前日

- 本人の意思、入学式の流れを確認。

- 会場を見学し、実際に歩いた。

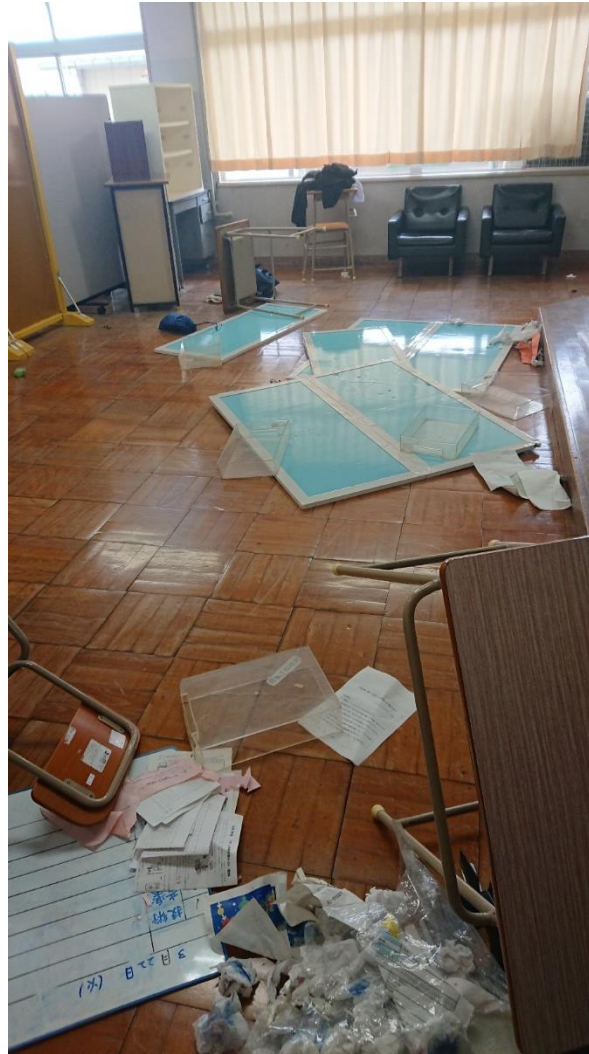
- ・入学式当日

- 緊張した様子。流れを再確認し、見通しをもったうえで、

- 交流学級での学活、クラス写真撮影まで参加することができた。

入学から1～2か月経つと・・・

・指導やテスト、学習、行事などの自分が思うようにいかない場面、友人との口論などから暴言や暴力、物を壊す、投げる蹴る、倒すなどの言動に発展するようになった。



担任の疲弊

入学式後授業についていけなくなる



活動に取り組まないことが増える



徐々に指導されることが増える



支援学級の担任との仲がこじれる

特別支援学級担任は生徒Aからの度重なる暴言・暴力による心身のストレスから
・表情がなくなる ・急に涙がでる ・体調を崩す ・病院受診の必要がでてきた
などの状態が見られるようになった。

取り組み

【1】生徒Aへの対応

- ①生徒Aの実態の把握・整理
- ②自立活動の内容の精選と工夫

【2】組織的な対応

- ①特別支援学級担任のケア
- ②チームでの一貫性・継続性のある支援体制づくり

【Ⅰ】①Aさんの実態把握・整理

◎感情のコントロールが効かなくなる場面

- ・手先を使った細かい作業
- ・字を書く
- ・近寄られる、触れられる
- ・集団活動
- ・特定の音、声（甲高い声）
- ・人前に出る
- ・同じことを2回以上言われる、聞かれる
- ・暑さ

【1】生徒Aの対応

- ①Aさんの実態把握・整理
- ②自立活動の内容の精選と工夫

◎怒りの感情コントロール
〈2-(1)情緒の安定に関すること〉

- ・怒りの数値化
- ・自己理解
- ・感情の言語化

●怒りの数値化

※数値化が嫌にならないよう、
楽しい感情から取り組んだ。

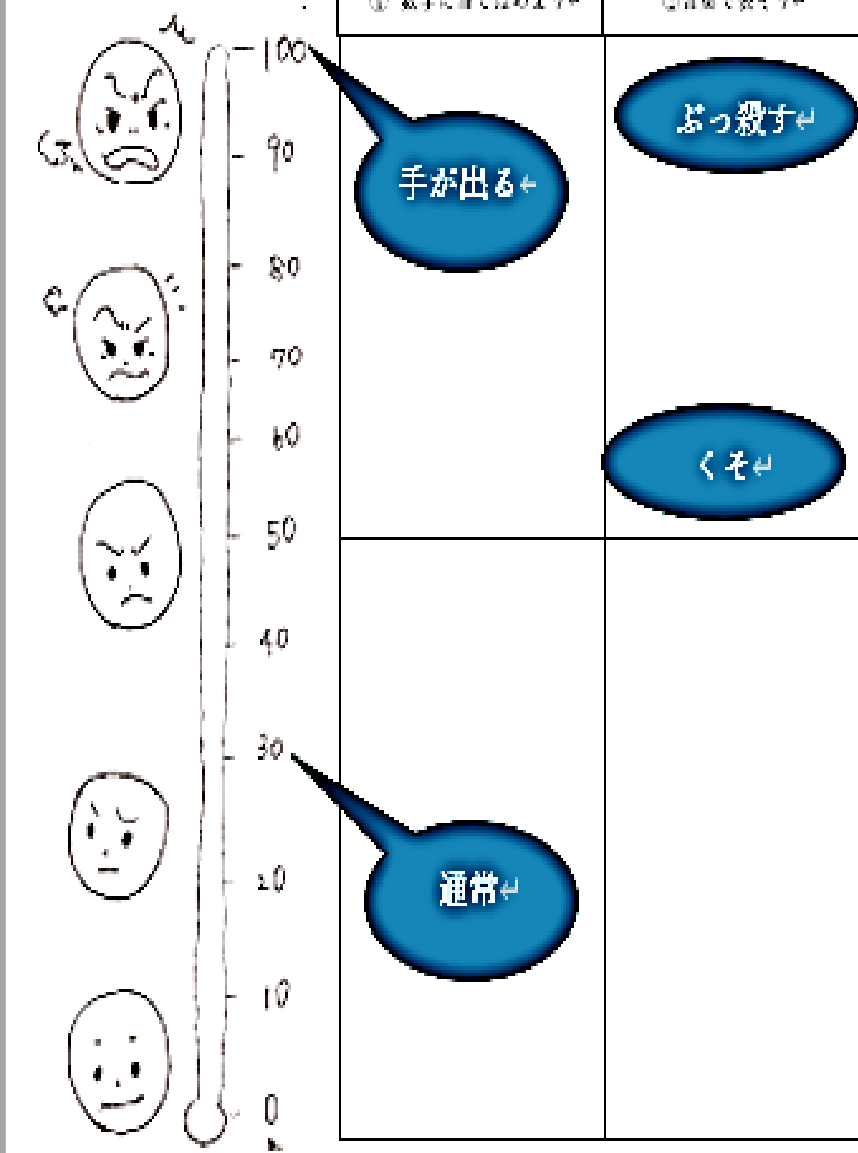
〈本人の最初の表現〉

・通常30 → 手が出る100

途中がなく、コントロールの効かない場面
では、一気に数値が上がることを表現した。

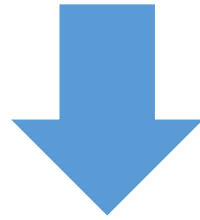
① 怒りを数値に当てはめてみよう！

② 怒りを言葉にしてみよう！

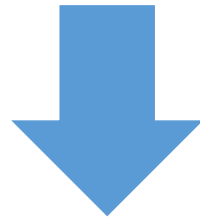


●自己理解

- ・感情のコントロールが効かなくなる場面を記録を見ながら担任と一緒に確認する



- ・自分の長所と短所を知る



- ・本人の気づきから解決策を一緒に考える

「ウザ」「死ね」「消えろ」など



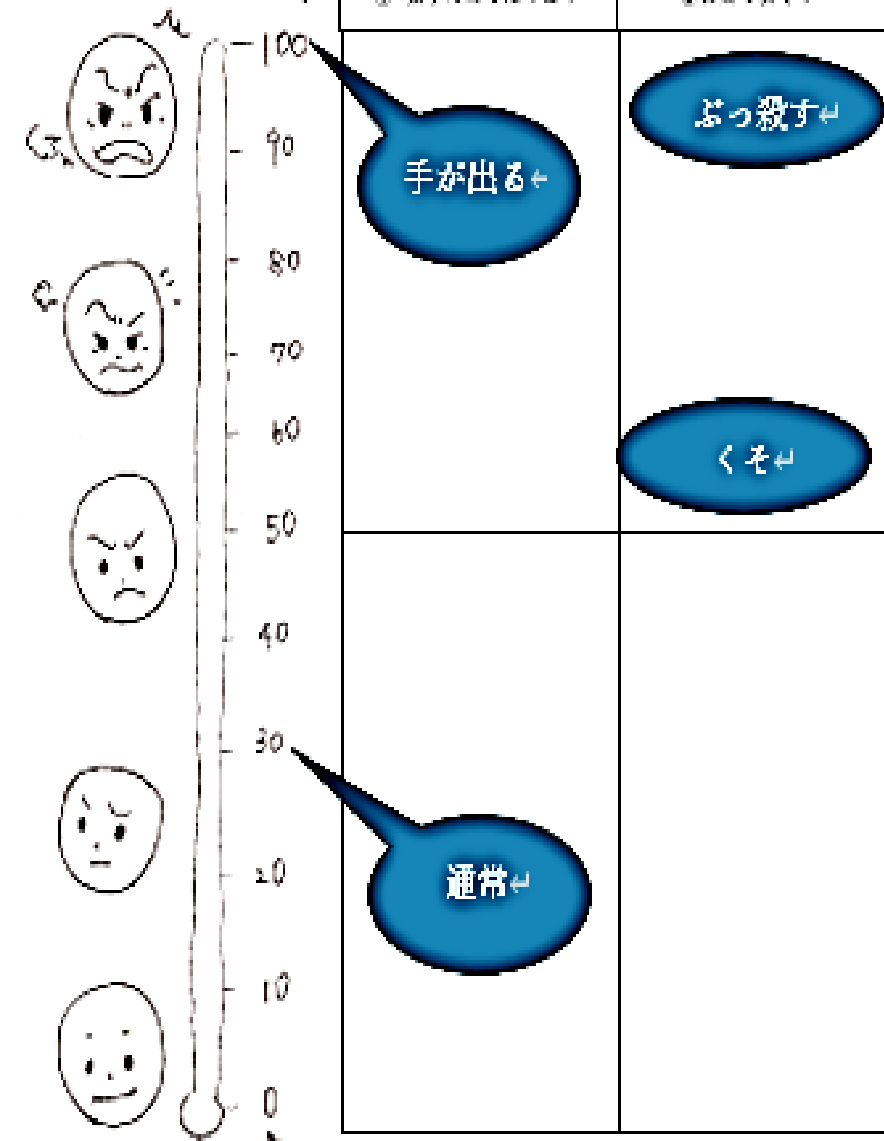
「近寄るな」「いらいらしてきた」



「手が出そう」「話しかけないで」



「これ以上近づいたら手が出る」



【1】②自立活動の内容設定（課題別の手だて）

◎力の加減、細かい作業、人との距離感

〈6-(1)コミュニケーションの基礎的能力に関すること〉

・運動

(ボクシング、キャッチボール、卓球、ランニング、バレーボール)

・ふよふよボール

・相手との距離感の視覚化

・バランスボール

・ロールプレイング

【1】②自立活動の内容設定（課題別の手だて）

◎集団への参加

〈3-(4)集団への参加の基礎に関すること〉

- ・自分で参加の有無を決める。
- ・事前に行事に向けた予告や計画。
- ・実技教科の事前練習をする。

【1】②自立活動の内容設定（課題別の手だて）

◎暑さ

〈1-(1)生活のリズムや生活習慣の形成に関すること〉

- ・服装による調節の仕方を学ぶ。
- ・自己理解
(暑さによりカッとなりやすいことを理解する)

【2】組織的な対応

- ①特別支援学級担任のケア
- ②チームでの一貫性・継続性のある支援体制づくり

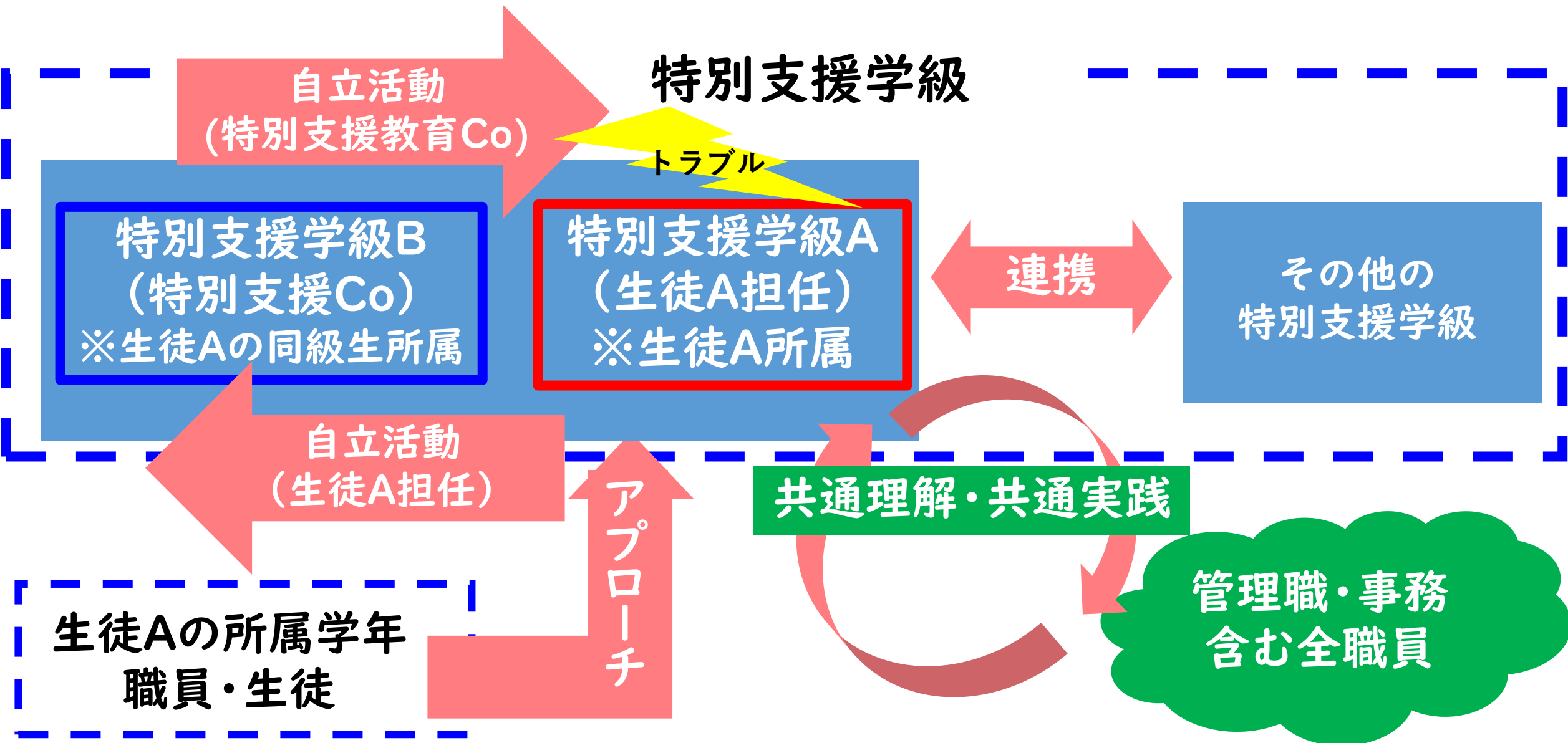
【2】①特別支援学級担任のケア

☆担任だけにならないように一緒に考える姿勢で

- ・スクールカウンセラーとの面談を設定。
- ・特別支援教育コーディネーターと一緒にエリアリーダーからの助言、実践。
(定期的に面談を設定し、経過報告と助言をいただく機会を設けた。)
- ・特別支援学級2学級を合わせて2人担当制をとる。



チームでの一貫性・継続性のある支援体制づくり



暴言暴力を引き出さないための支援としての 共通理解・共通実践【人的配慮・支援】

- ・支援者は最低でも机1つは空ける。
- ・正面からではなく、横から支援する。
- ・生徒Aの体に触れない。
- ・落ち着いたトーンで1つずつゆっくりと話す。
- ・生徒Aの近くに投げると危険なものを置かない。
- ・個別スペースをのぞかない。
- ・傾聴を心がけ、否定的な言葉を使わない。
- ・1度話して理解できなかったり理解してもらえなかったりしたことは担任を通して話してほしいことを伝える。

暴言暴力を引き出さないための支援としての 共通理解・共通実践【物的配慮・支援】

- ・いす、机の脚にテニスボールをつける。
- ・イヤホンやイヤマフをつける。
- ・少人数の教室で授業をする。
- ・夏はエアコンを低めに設定する。
- ・好きなキャラクターをファイルや教材に貼ったり描いたりする。
- ・チャック付きファイルにテプラで教科名を貼って管理する。

MY OWN MEANINGFUL ONE!

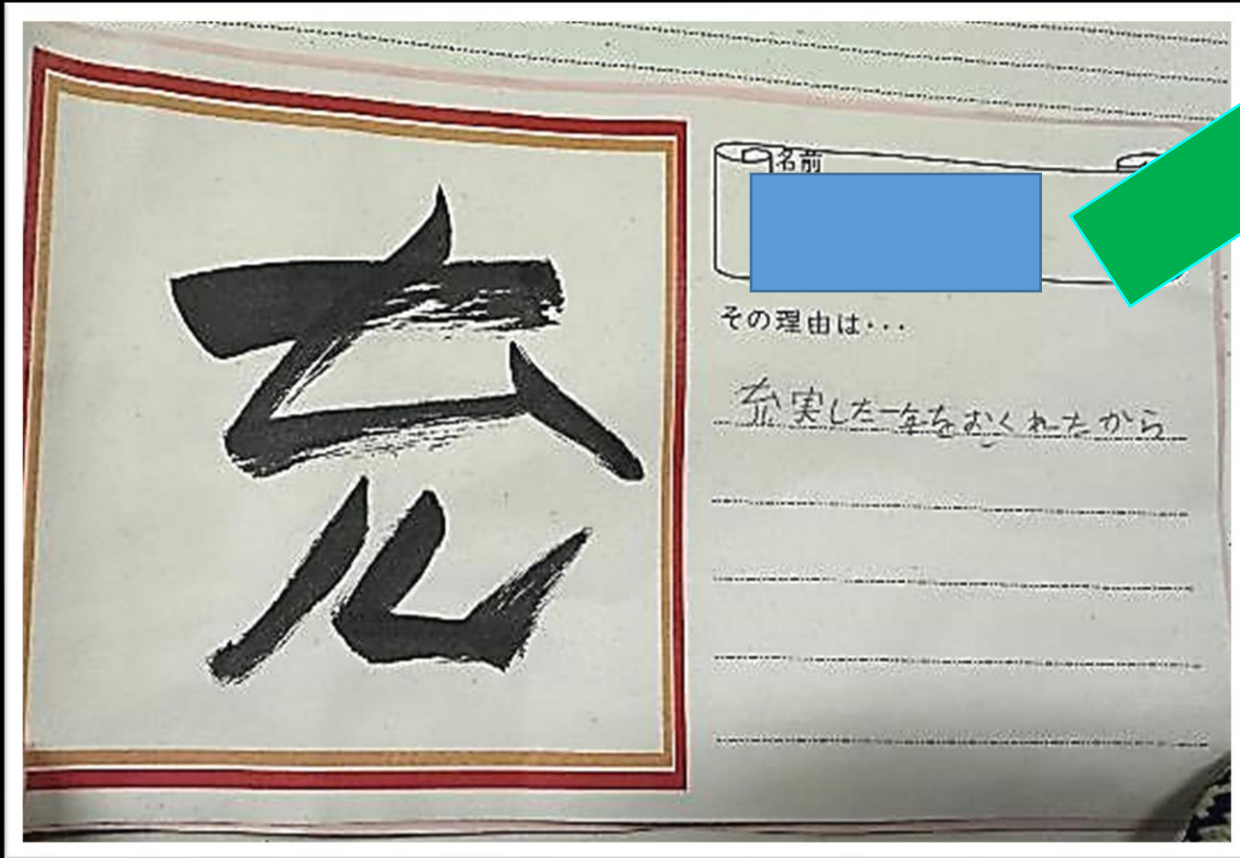


最高の音!
生きがい



交流学級担任の取り組み

同級生と同じように書けたということから、自信がついた。また、保護者に見てもらって声をかけてもらえたりすることから書く意欲につながった。一字でよかったのも本人の負担が軽減されたことにつながった。



成果

①自立活動の工夫を通して

- ・怒りのコントロールを徐々に身に付けることができ、暴言や暴力ではなく言葉で考えや思いを伝えて解決することができるようになった。



②組織的な対応を通して

- ・担任の心の負担を軽減することができた。
- ・2人担当制をとることで、活動の幅が広がったことで、他の生徒へも良い影響を与えた。
- ・共通理解・共通実践することの大切さを痛感した。

課題

①自立活動の工夫を通して

- 迅速な実態把握
- 自立活動の内容や方法の更なる工夫

②組織的な対応を通して

- 職員対象研修の回数増加
- 職員全体で支援方法を見直す場面の設定
- 交流学級の環境調整・配慮の工夫



ご清聴
ありがとうございました

